

2020年度「校長室からの挑戦状No.40(3/5)」

小学生でも十分で
きる問題です!

締切(3月10日)

あきらめずに
考えてみよう!

高校入試問題に挑戦してみよう! (R 3 宮城県高校入試問題数学改題)

1. 二けたの整数を考え、十の位をX、一の位をYとします。なお、X、Yはともに1~9までのいずれかの整数とします。
- (1) この整数をXとYを用いて表しましょう。
 - (2) この整数の一の位と十の位を逆にした整数をXとYを用いて表しましょう。
 - (3) (2) で求めた整数から(1)の整数を引いたところ、その値が45になりました。もとの(1)の整数で最も大きいものを求めましょう。

2. 右の表は、あるクラス全員(40人)の片道の通学時間を調べて整理したものです。この表から必ずいえるものはT、いえないものはFに○をつけてください。

- ① モードは12.5である。
- ② 通勤時間の平均は12.5分である。
- ③ 20分以上25分未満の階級の相対度数は0.15である。
- ④ このクラスは遠くから来ている人はあまり多くはない。
- ⑤ 中央値は15分以上20分未満の階級に入っている。

片道通学時間(分)	
以上~未満	度数(人)
0~5	4
5~10	7
10~15	10
15~20	8
20~25	6
25~30	5
合計	40

学年

氏名: 解答例

1

(1)

$$10X + Y$$

(2)

$$10Y + X$$

(3)

$$(10Y + X) - (10X + Y) = 45$$

$$9(Y - X) = 45$$

よって、 $Y - X = 5 \Rightarrow (Y, X)$ は $(6, 1)$, $(7, 2)$

$(8, 3)$, $(9, 4)$ 最大となる (1) の整数は 49 である。

2

① モードは 12.5 である。

T · F

② 通勤時間の平均は 12.5 分である。

T · F

③ 20 分以上 25 分未満の階級の相対度数は 0.15 である。

T · F

④ このクラスは遠くから来ている人はあまり多くはない。

T · F

⑤ 中央値は 15 分以上 20 分未満の階級に入っている。

T · F